

する。

クロクマリキジンジヤ 畔分塚神社 ↓ア  
セクマリキジンジヤ 畔分塚神社。

クロサカキチザエモン 黒坂吉左衛門 渡  
邊左衛門の子。その母は朝倉氏の家老黒坂備  
中の女であつたから、吉左衛門は改めてその  
氏を冒した。足輕頭・組外兼御歩裁許御馬廻  
頭に任じ、千五百石を受け、萬治元年歿。

クロサカヤマ 黒坂山 河北郡清水に在る。  
寶曆の調書に、清水村持山の内に黒坂山があ  
つて、青石・赤石を切出す。戸室山續きであ  
るからこれを戸室石と稱へるとある。

クロサキ 黒崎 江沼郡の中に屬する部  
落。源平盛衰記永二年五月二日平軍の加賀  
國へ攻入つた條に『先陣安宅につけば後陣は  
黒崎・橋立云々まで列りたり。』といふものこ  
れである。茂徳紀聞に、黒崎領から橋立領に  
かけて海濱に松林があり、その内に經塚ま  
たは首塚と稱する怪石のあることを記してあ  
る。

クロサキ 黒崎 鹿島郡大吞郷に屬する部  
落。能登誌に、この村に諏訪明神があり、そ  
の宮森に黒岩といふ大石があるが故に名づけた  
といひ、又火打石の名石があつて今は御留山  
に成つてゐるとも記する。

クロサキ 黒崎 鳳至郡中の内の小字。  
クロサキ 黒崎 鳳至郡劍地の部落から西  
南方に當る岬。

クロサキ 黒崎 珠洲郡馬線に在る。能登  
誌に、『此馬線村黒崎といふ宮森に深き穴あ  
り。石を落せば其音餘程聞ゆれど、後には幽  
になりて知れず。金輪際よりつゞきたる穴な  
りといへり。』と記する。

クロサキガハ 黒崎川 鹿島郡黒崎に於い  
て富山灣に注ぐ小流である。

クロジ 黒地 ↓クロウヂ 黒氏。  
クロシマ 黒島 鹿島郡能登島なる曲の北  
方海上の島。

クロシマ 黒島 シル 鳳至郡櫛比庄に屬  
する部落。能登名跡志に『黒島村は、劍地村  
より往來にて一里半あり。公領なり。よき村  
也。番匠屋など、て船持あり。御預所にて繁  
昌なり。』とある。

クロシマガハ 黒島川 ↓ハツカガハ 八  
ヶ川。  
クロシマハツケイ 黒島八景 鳳至郡黒島  
附近の八勝を教へたもので、龍松夜雨・中山  
暮雪・沖島歸帆・長山晴嵐・若宮秋月・高島落  
雁・鹿邊夕照・高野晚鐘であり、文化九年六月  
獅子窟破井の詩がある。

クロスギ 黒杉 羽咋郡鶴野屋の内の小字。  
クロスギ 黒杉 鳳至郡七浦庄に屬する部  
落。大澤内記所載永徳二年二月十八日の文書  
其の他に、能登國大澤村内黒杉分とあるから、  
元來大澤の枝村であつたと見える。明治中に  
至り、新保・上雅座・池田・小町と共に合併し  
て上山と稱した。

クロスマヤマ 黒須山 鳳至郡下仁行部落の  
東方に在る山。高さ二三八米。地質第三紀層。  
クロセ 黒瀬 江沼郡山中谷に屬する部落。  
江沼志稿に、この村領に城廻・的場といふ地  
名のあるのは黒瀬部尤の居地である、覺道屋敷  
といふのは黒瀬覺道の居地であると記して  
ゐる。

クロセ 黒瀬 石川郡笠間郷に屬する部落。  
クロセウチ 黒瀬氏 黒瀬は江沼郡の邑名

で、一向一揆の將黒瀬新兵衛覺道の住地であ  
る。覺道の子に左近があつた。その他黒瀬藤  
兵衛・黒瀬圓鏡・黒瀬五郎左衛門・黒瀬左京・黒  
瀬掃部尤・黒瀬兵庫等の名あるものは、皆出  
自を同じくするものであらう。天文日記に、  
江沼郡黒瀬堂と見えるものは、亦彼等黒瀬一  
族の建立した坊舎であらう。  
クロセカクドウ 黒瀬覺道 初名新兵衛、  
剃髪の後覺道と稱した。北陸七國志に大坊主  
黒瀬の愚教とあるも之に同じからう。一向一  
揆の將で、江沼郡黒瀬村に居住したが、天正  
八年柴田勝政が能美・江沼の賊將を越前丸  
岡に欺き招いた時覺道は出奔した。その子に  
左近政義があつたが、同年能美郡で戦死した。  
左近の子庄左衛門は越前に脱し、奥田四郎左  
衛門の爲に撫育せられたが、後加賀藩に來り、  
富田治部左衛門に仕へて、子孫黒瀬氏を稱へ  
てゐた。

クロセカモノスケ 黒瀬掃部尤 弘治元  
年朝倉宗滴加州土賊討伐の時、掃部尤は江沼  
郡南郷に堡を構へてゐたが、戦利なく、僅か  
に身を以て山中に却いたとある。  
クロセヤブツセン 黒瀬屋佛仙 小松の俳  
人。初號山叩、剃髪して佛仙といひ、所居を  
北海坊・十方庵と稱し、後に左靜の後を受け  
て子日庵二代を襲いだ。寛政二年六月十一日  
歿、享年七十。秋祭・都の冬・芳野の花・初秋  
等の著がある。  
クロソメ 緇染 加越能銘記に金澤名物の  
うちに緇染を擧げて、その註に、『下因「椽皮  
染」洗不「素」とある。一般に憲法染といはれ  
たものゝことであらう。』  
クロダ 黒田 石川郡大野庄に屬する部落。

クロタキジヨウ 黒瀧城 珠洲郡川尻にあ  
つた。越登賀三州志故墟考に、『正院郷川尻村  
領城跡。海邊往還平砂の地を離れ、西北方の  
山上方百二十間許の所あり。古城の遺状明  
かならず。』とある。

クロタキチヨウ 黒瀧長 ↓チヨウカゲツ  
ラ 長景連。  
クロタキヤマ 黒瀧山 河北郡王山の北  
方に在る山。海拔七二二米。地質石英相而岩。

クロダクエモン 黒田九右衛門 大聖寺藩  
の御作事大工であつたが、寛政七年越前福井  
に至りて極奇流炮術を習ひ、文政八年平足輕  
に取立てられ、安政六年炮術師範役に進み、  
後御徒進に班し、慶應二年八十八歳を以て歿  
した。

クロダジロザエモン 黒田次郎左衛門 今  
枝民部の家老。祿二百石。享保十三年同役多  
和田庄左衛門の子彌四郎に及殺せられて家斷  
絶した。

クロダタノモ 黒田頼母 前田利常が小松  
隱棲の頃は、近在三谷に土郎があり、秋には  
頼などが行はれた。寛永十九年七月小將黒田  
頼母も、黒瀧子に紅雲の頭巾を被つて踊つて  
ゐたが、津田玄蕃の小々將二人と喧嘩になり、  
一人を即死せしめ、一人は負傷の後死に、頼  
母も傷ついたが、後に追放せられた。是を三  
谷喧嘩といふと三藩調書に記される。しかし  
黒田頼母由緒帳によれば、頼母は遠慮を申付  
けられ、廿三年の後小幡不入の訴訟によつて、  
寛文五年先知二百石を賜はつたとある。

クロダドウセツ 黒田道節 元和元年前田  
利常に仕へて二百石を受け、三年歿した。子  
半右衛門高道以後天野氏を稱する。